



学校だより

みどりの

○考え伝え合う子

○心豊かな子

○元気な子

○やりぬく子

令和3年6月30日

当事者意識をもつこと

校長 遠藤 昌司

少し前、緑野小学校の敷地の北側、校舎のきわに、ホタルブクロが咲いていることに気づきました。野山で見かける花という印象があったので珍しく感じています。花の形が提灯(ちようちん)に似ているため、その古語である「火垂る」から名づけられたという説が、名前の由来の一つであり、アジサイと並んで梅雨時の象徴的な植物だそうです。夏至を過ぎ、暦の上では夏の折り返しに入っていますが、いかにも梅雨ならではの不安定な天候が続いています。本格的な夏の到来までは、あと少し待たなければならないようです。

新型コロナウイルス感染症対策については、ご家庭でもご協力をいただいているところで、感謝しております。大和市は6月下旬より蔓延防止等重点措置が解除となりましたが、教育委員会等と十分に連携しながら、適切な手立てをとった上で、教育活動を進めて参ります。

6月の終わりに、6年生は茶道体験教室として多胡記念公園の「慈緑庵」に出かけてきました。例年とは異なり様々な制限がある中、茶道会「大和みどり会」岩本宗翠会長の熱意のもと、無事に実施することができました。今の状況もある意味で「一期一会」なのかもしれません。450年以上も続く茶道の世界はとても奥の深いものですが、その一端に触れることを通して、6年生の子どもたちは、以前にもまして上品になったようです。人に対して真心を込めて接することや、礼儀作法を踏まえて振る舞うことへの意識も、これからきっと高まっていくことでしょう。

過日、研修会の折に講演を聞く機会がありました。講師の工藤勇一先生は、一昨年度までは東京都の麴町中学校で、昨年度からは横浜創英中学・高等学校で、校長として様々な学校改革を推進され、注目を集めている方です。そのお話の中で出てきた「当事者意識」という言葉が、自分にはとても響きました。OECD(経済協力開発機構)が2030年に向けた教育のあり方をまとめた中で、将来世代の子どもたちに必要とされるのが「Agency」であり、その訳語にあたるそうです。便利になった現代の世の中においては、人任せになってしまうことが多いように感じることもあります。与えられることをこなすだけではなく、すべてのことに対して自分のこととして考え、自己決定していくことが、これからの子どもたちに求められていくものなのではないかと思えます。

「当事者意識」をもち、子どもたちが自己決定を積み重ねていくことを通して、自己肯定感を高めていってほしいと思えます。